

橋下 維新

逆流の正体

大阪府での府立高校の「学区撤廃」とともに、大阪府で橋下徹市長が2014年度から導入を掲げているのが、小中学校での「学校選択制」です。

保護者の代表として公募委員になった大前ちなみさん(40)は「導入するとしたらどういふものにするかを決めるための会議だったので驚いた」と話します。

大阪府での府立高校の「学区撤廃」とともに、大阪府で橋下徹市長が2014年度から導入を掲げているのが、小中学校での「学校選択制」です。大阪府議会では5月、「市教育行政基本条例案」が「大阪維新の会」と公明党の賛成で強行可決されました。一方、学校選択制を押しつける「市立学校活性化条例案」は、市民世論と運動に押され継続審議中です。しかし、橋下氏は強引に準備を進めています。

4月26日、市役所で1回目の「熟議『学校選択制』」(市教育委員会主

この日、市教委側が導入のメリットとしてあげたのは「特色ある学校づくり」や「学校の活性化」など。一方で課題として、制度を廃止した群馬

第2部 教育破壊「日本一」 ⑤



大阪府教育委員会が開催した「熟議『学校選択制』」で疑問点をたずねる公募委員の大前さん(中央) 4月26日、大阪府役所

県前橋市や東京都江東区などの事例から「学校と地域の関係の希薄化」「特定の学校への児童生徒の偏り」「通学区域外から通学する児童の安全確保」があげられまし

た。

大前さんはいいます。「各区での説明会でもそうでしたが、メリットと

見などで保護者の声を発信し、現在、会員は80人以上に増えています。

市民で熟議を

大前さんは指摘します。「私たちが望んでいるのは少子化の時期を好機として少人数学級を進めることです。それを敵視してきたのが橋下さんたちです」

大前さんは今年2月、橋下市長が「学区撤廃」について「圧倒的多数が望んでいる」と発言しているのを知り、「保護者の声が無視されてしま

「結局、選択制も学区撤廃も、『選ばれなかったのは学校や地域の責任だ』として、なかなか進まなかった学校の統廃合を進め、公費を削減する

大阪の教育破壊を止めるのは草の根のたたかいです。(おわり)

保護者の声を発信

制高校(工科や農芸などを除く)を70校に絞り込むのもありだと質問して